

鳥取県文化振興財団のミッション（使命）

当財団は、これまで、県民の皆様が文化芸術に親しみ、参加していただくため、スローガンである「ARTS FOR EVERYONE ～アートでつながる 心うるおう 未来のために～」をもとにした5つの重点項目のキーワードとして「観る」「触れる」「育てる」「伝える」「創る」を設定し、その実現のための各種取組を実践してきました。

この重点項目は、第4期の指定管理者における事業計画に明記しており、更に、これに「拡げる」「深める」の2つを加え、7つのキーワードで事業を展開しています。

- ア 観る：国内外の質の高い舞台芸術の鑑賞の提供
- イ 触れる：文化芸術に触れる機会の提供
- ウ 育てる：若者の育成及び参画
- エ 伝える：情報の発信と伝統文化の伝承
- オ 創る：新しい文化芸術の創造
- カ 拡げる：さらなる地域への定着
- キ 深める：文化芸術の社会的意義

新型コロナ禍、直接的対話が少ない「新しい日常」へと社会生活が変化している一方、その副反応として文化芸術の価値を再認識できたことにより、改めて、公立文化施設及び文化芸術活動における方向性が明確化・鮮明化されました。

そこで、県民文化会館及び倉吉未来中心は「地域(広域)拠点型劇場」を目指し、実演芸術という「心のワクワク」を、「ライブ・アート・プロジェクト」という心震わす力強い大きな波に乗せて、確実に各地域に届けるため、上記の7つのキーワードを整理し、以下のとおり「6つのミッション」に再構築します。

6つのミッション

①優れた実演芸術の鑑賞の場を提供

⇒全国トップクラスの機能を備えた劇場を活用し、国内外の優れた実演芸術を鑑賞する場を幅広く提供します。

②県内外に実演芸術を創造・発信

⇒新たに実演芸術作品をプロデュースし、県内外に発信します。

③実演芸術のすそ野を拡大

⇒次世代及び潜在的観客層への普及教育を図り、実演芸術に親しむ観客の拡大を図ります。

④地域全体の文化芸術力を向上

⇒市町村・市町村劇場や地域の実演家・団体と連携し、地域全体の文化芸術力の向上を図ります。

⑤地域の課題に対処

⇒実演芸術の力を活用し、社会的課題の解決に取り組みます。

⑥劇場・音楽堂への支援

⇒市町村劇場とのネットワークを強化し、継続的な活動と劇場関係者を支えます。

ミッションを効果的・効率的に達成するためのビジョン（将来展望）

6つのミッションを効果的・効率的に達成するため、その土台を「事業」「経営」「人材育成」の分野に分け、各分野において、それぞれ具体的なビジョンを、次のとおり設定します。

（1）事業分野におけるビジョン

地域によって商習慣、文化資産、行動習慣が異なることから、それぞれの地域性を踏まえて「トライ&

エラー」と「スクラップ&ビルド」で事業を企画・立案・実施するとともに、1事業(プログラム)は企業(店舗)の1商品と同じであるとの認識のもと、社会的成果(アウトカム)に向けた全事業プログラム(=事業戦略)を構築することが必要です。

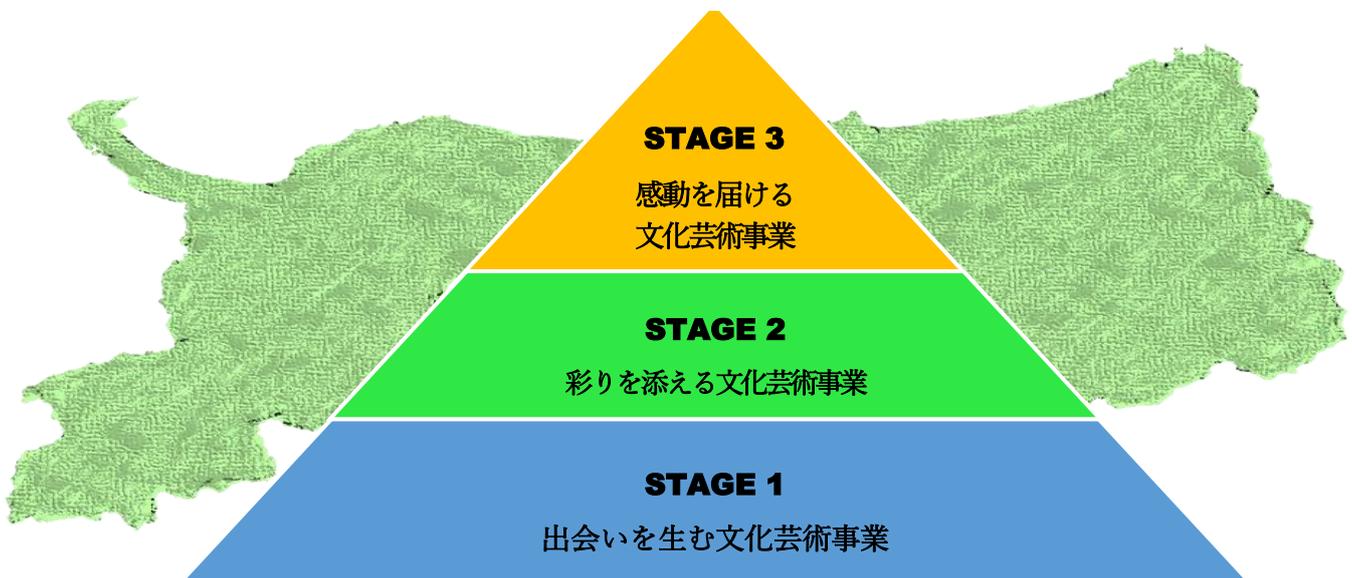
ミッションの達成を考える上での事業分野で特に考慮すべきポイントは、以下のとおりです。

- ・事業のブランド化からホールのブランド化へ
- ・非日常から発見、楽しみを得るホールへの進化

このポイントを踏まえた事業分野におけるビジョンを設定すると、次のとおりです。

- 実演芸術のプレゼンスを高める劇場を目指す。
- 優れた実演芸術作品を継続的に創造・発信し、県内外での認知度を高める。
- 多種多様な人が劇場に集い、親しまれる劇場を目指す。
- 国内外の良質で多様な公演の鑑賞機会の提供と質の高いサービスを実施する。
- 実演芸術により豊かな感性を育み、次世代への継承・発展を図る劇場を目指す。
- ファミリー・プログラムを充実させ、ファミリー層の来館を促進する。
- 子どもを対象とした事業を積極的に展開し、人材育成・発展の新しい広場を目指す。
- アウトリーチを始め各種事業を市町村及び市町村劇場とともに推進する。
- 市町村・市町村劇場とともに、広域的な文化振興を図る劇場を目指す。
- 県内の市町村・市町村劇場と協働して巡回公演、ワークショップ等の拡大を図る。
- 地域の課題に積極的に応え、地域に貢献する劇場を目指す。
- 行政や関係団体と連携しながら、地域のニーズを把握し、課題解決を図る。

事業実施にあたっては、上記のミッション及びビジョンを踏まえ、次のとおり事業を体系化(STAGE 1から3に重層化)して、目的と目標を明確にし、段階的かつ重層的な戦略のもと、県内各市町村・市町村劇場や実演家・文化芸術団体等と連携して、県民の誰もが文化芸術を鑑賞・体験できる機会を創出します。



STAGE 1 出会いを生む文化芸術事業の展開

[目的]

県内市町村や文化芸術団体等と連携協力のもと、これまであまり縁の薄かった方々にも新鮮で笑顔溢れる実演芸術を届けることを目的とした事業を展開します。

[目標]

- ・初めての实演芸術体験機会の創出を狙い、誰でもが鑑賞し、体験できる機会を設けます。
- ・若年層や家族が気軽に参加できる仕掛けを作ります。

STAGE2 彩りを添える文化芸術事業の展開

[目的]

県内市町村や文化芸術団体等と綿密な連携のもと、心地よい実演芸術に触れることにより、ライフスタイルに彩と夢を届ける事業を展開します。

[目標]

- ・県民が多彩な実演芸術に触れ、魅力ある事業を体験できる機会と環境を整えます。
- ・実演芸術をより楽しみ深めるためのアウトリーチ事業を行います。
- ・将来を担う実演芸術活動者の発掘と育成を図ります。

STAGE3 感動を届ける文化芸術事業の展開

[目的]

基幹ホールの優れた機能とこれまで培ってきた財団の専門的ネットワーク及び技術のもと、鑑賞・参加される方々に高質な実演芸術を満たすことにより大きな感動を届けます。

[目標]

- ・県民を魅了する良質な舞台作品の鑑賞機会を提供します。
- ・次世代を担う若手芸術家・活動者との協働により高質な創造作品づくりを行います。
- ・将来を担う実演芸術活動者の発掘と育成を図ります。

(2) 経営分野におけるビジョン

ミッションの達成を考える上での組織・会計・サービス等経営分野で特に考慮すべきポイントは、以下のとおりです。

○組織・雇用面

- ・財団の代表機関である理事と財産の意思統一を図るための合議体である理事会のガバナンスの強化
- ・財団の評価機関である評議員と重要事項に関する決定機関である評議員のガバナンスの強化
- ・正規・非正規職員の適正配置と働き方改革への対応
- ・専門人材の育成と配置

○財務・会計面

- ・基本財産基金等の取扱いや財団友の会、民間寄付の促進、助成金獲得の推進などによる持続可能な財政収入の確保
- ・財務の状況や逐次の会計チェックが可能となる財務会計システムの高度化・高質化
- ・アニュアルレポートの作成、ステークホルダーへのPR

○サービス面

- ・効率性と公平性を念頭にICTをフル活用した次世代の施設予約・利用システムの構築
 - ・WEB時代を踏まえた役所型の許認可行為、庁舎管理的な予約・利用システムの解消
- このポイントを踏まえた経営分野におけるビジョンを設定すると、次のとおりです。

○自主財源を確保し、ミッションの実現を果たせる劇場を目指す。

○利用者に公平な利用料の設定と入場料収入の割合を高める。

○企業等との協力関係を強化する。

(企業従業員のワークライフバランスに資するチケット斡旋やプロモーション協力など)

○財団友の会及びパートナー企業制度の普及を目指し、支援者数の増加を図る。

○財団の取組成果を見える化し、外部への情報発信と健全な財団運営を図る。

(3) 人材育成分野におけるビジョン

ミッションを達成する上で特に考慮すべき意識・マインド面でのポイントは、以下のとおりです。

- ・従来の機能未定義時代の弊害を排し、新たな時代に何を提供すべき公共機関かといった共通意識の確保
- ・自主事業を長期戦略で体系的・計画的に推進していく意識の確保

これらを踏まえ、人材育成分野におけるビジョンを、次のとおり設定します。

- 職員が安心してその能力を発揮できる劇場・音楽堂を目指す。
- 専門性が高い人材の安定的確保と正規職員化を図る。
- 信頼を得られるディレクター・プロデューサーたる職員を養成する。
- 職員の専門性をさらに高める計画的研修を継続実施する。
- 職員のための研修を開催し、広域的にアートマネジメント人材の育成とスキルアップを図る。

県民文化会館及び倉吉未来中心の地域拠点型劇場としての3つのミッション

文化芸術が「不要不急」から脱し、県民文化会館及び倉吉未来中心が幸福と尊厳と健康を担保する拠点施設としてその役割を果たすためには、どれだけ多くの社会的認知と住民的合意を獲得できるかということにかかっています。

県民文化会館及び倉吉未来中心の職員は、まずは当該地域の住民の方と向かい合えなければ仕事になりません。職員の顔が、芸術と芸術家の方を向いてばかりいてはいけません。一番必要なのは、その生活環境・育成環境・経済環境をも包括して寄り添うことのできる「対人共感性」及び「対人共感性」です。

文化施設における「経営」とは、新しい価値を創出する営みであり、その価値とは経済的利益とは限らず、文化芸術が普遍的に持つ「基本的価値」「社会的価値」を地域に届け、そして認識していただき、その効用を発揮するとともに、文化芸術の多様な価値の総出により地域アイデンティティの高度化を図り、芸術が日常生活の一部となる「住みやすさ一番」の地域価値の醸成です。

これらを認識した上で、両館が真に地域拠点型劇場となるために、次の3つミッションを設定します。

3つのミッション

①県民に愛され、誇りとなる劇場づくり

実演芸術に関わる鑑賞、学習、参加、創造など多彩なプログラムを企画し、多様な事業が相互に作用することで多目的に人が集い賑わう劇場、そして「県文があってよかった」「未来があって誇らしい」と多くの県民に言ってもらえる、愛され、誇りとなる劇場を目指します

⇒「個別・個人の体験」から「共有できる思い出づくり」へ、そして「呼吸をしている劇場へ」

②拠点機能の強化

県民文化会館及び倉吉未来中心では、県立施設の重要ミッションとして、第一に、市町村劇場や多様な文化の担い手のリーディング劇場となることを目指します。

第二に、ゾーン全体が求心力を持つことで、東西に長い鳥取県のどこからでも訪れたくなるゾーンづくりを目指します。そのためにも市町村・市町村劇場との更なる連携に努め、これまで以上にアウトリーチを展開し、財団が地域と実演芸術でつながることにより、身近に実演芸術の花を咲かせることを目指します。

⇒「こっちに来て」から「そっちに行く」へ、そして「創客（顧客の創造）」へ

③アートの社会的効用の発揮

劇場法の条文にも規定されているように、地域コミュニティの創造と再生が劇場機能に求められています。

「for ART（アートのため）」の事業だけでなく「by ART（アートによる）」事業も、すなわちアートが手段となり社会的効用を発揮する事業への社会的要請が高まっています。教育、福祉、観光、経済など、アートの持つ力で様々な分野の地域課題に積極的に取り組みます。

⇒「近い人」から「遠い人」へ、そして「共感と信頼」へ

誰かのためのものではなく、みんなのためにある。そこに行けば楽しくなれる、嬉しくなる。多くの人が集い、多くの人がいかにこやかになれる場所。これが「公共劇場のミッション」でしょう。まさしくこの場所は、“呼吸（いき）をしている劇場”であり“生命（いのち）が躍動している場所”でしょう。

そして、税金・公金を財源として行う事業・取組は、地域の人々の幸せへと繋がるものなければならず、文化芸術の価値を享受できる取組でなければならないと考えます。加えて、文化的アイデンティティの源となることも公共劇場の立ち位置でしょう。

地域に根差したものの、地域発のもの創出、地域にあるものを活かし、多様性として価値を高めていくなど必要な取組を推進し、公共劇場のミッションを実現するためには、まずは個人がアイデンティティをしっかり持ち、「劇場、音楽堂等」で働くことを誇りとしながら、強い信念・情熱・忍耐力を持って実行し続けることが何より重要です。

【参考】財団のミッション策定までの取組経緯等

1 財団職員研修会で“たたき台”を提示

- 令和3年10月 令和3年度第2回財団職員研修会
- 令和4年 3月 令和3年度第3回財団職員研修会
- 令和4年 6月、7月 令和4年度第1回財団職員研修会

2 人材育成検討プロジェクトチームによる検討

- 令和4年2月 チーム結成、取組内容の確認、今後スケジュール等
- 令和4年3月 第1回：「ミッションとビジョン」、「人材育成方針（たたき台）」の再点検等
第2回：情報収集のための視察先の検討
第3回：視察先の選定、財団の現状と課題の分析
（※第4回～第6回：視察に係る聞取内容の検討等）

——— 先進施設視察 5月下旬～6月上旬 ———

Aグループ

新潟市芸術文化会館（りゅーとぴあ）
神奈川芸術劇場（KAAT）
世田谷パブリックシアター

Bグループ

愛知県芸術劇場
兵庫県立芸術文化センター

Cグループ

熊本県立劇場
北九州芸術劇場

Dグループ

石川県立音楽堂
京都コンサートホール
ロームシアター京都

- 令和4年6月 第7回：視察先の聞取情報の共有、「人材育成方針（PT案）」の検討
第8回：令和4年度第1回財団職員研修会での視察報告に係る資料等の確認

——— 令和4年度第1回財団職員研修会での視察報告 ———

- 令和4年7月 第9回：「財団のミッション（PT案）」の決定

3 財団地域懇談会（東部・中部・西部）で、参考資料（改訂中）として提示

- 令和4年3月 令和3年度第2回地域懇談会（東部・中部・西部）



令和4年8月「公益財団法人鳥取県文化振興財団のミッションについて（案）」を決定